

【香川】瀬戸内産のフ

ランド魚「讃岐さーもん」が、4度目の出荷シーズンを迎えた。2011年から出荷尾数は順調に伸長、生産を開始して以降、今年以前年の倍以上となる3万~3万5000尾の出荷を計画する。成育が順調なことから香川県



内販売は昨年より10日早い15日にスタート。24日からは全国販売を始め、5月末までの期間限定販売となるが、今後は知名度をいかに上げていくかも課題となる。

讃岐さーもんは瀬戸内海産のトラウトサーモン（海面で養殖したニジマス）。瀬戸内海は温暖な気候ながら、12月から翌

4度目の出荷シーズン 倍増も知名度向上に課題

5月の海水温が低下、現在の生産は坂出市ラウトの養殖に適している。海水温は11月中旬から6月初旬は20度を切り、1月初旬から3月は10度を切る。2月には7度くらいまで下がる。池入れは12月に行う。1尾約400gサイズの種苗を池入れし、翌年の4月中旬から5月末までの約50日間限定販売する

島町（岡田水産）、東か

がわ市引田（服部水産）の3カ所。昨年12月は合計約5万尾の種苗を池入れた。餌は4種（ナツメグ、オレガノ、シナモ

ン、ジンジャー）のハーブを配合した専用の固形飼料。ハーブは筋肉中の脂肪の酸化を抑え、生真

さを抑える効果が期待できるとう努力し、しっかりと基盤をこくりたい。

讃岐さーもんは水揚げした全専用のものを使う。店頭には並ぶため、おとり、品質には自信がある」と話す。

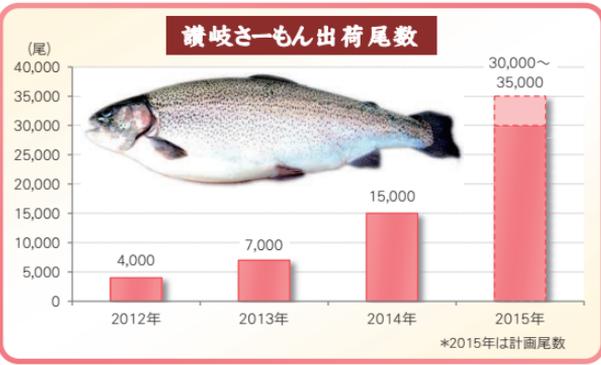
直島で讃岐さーもんを養殖する岡田水産の岡田 伊藤孝彦（30）は「成育は順調。今年にはヒリを抑制するため餌のサイズを抑えたい。初出荷は昨年より早くなっている。14日の水揚げは1は増やしていきたい」と生産拡大へ意欲的。

今後、出荷量は増やしていきたい」と生産拡大へ意欲的。

瀬戸内海産トラウトサーモン

の生産には新たな取り組みの動きもあり、今後の成長が期待されている。

（四国支局・兼澤勉）



直島の漁場



瀬戸内海産トラウトサーモン